5. 急性期医療機関における
脳卒中患者在院期間の推移

リハビリテーション科学
飯田真佐夫，渋谷健一郎，島袋久弥，吉田健哉，
鈴木大雅，古市照人

【目的】2000年度から回復期リハビリ病床が
新設され在院日数が急性期医療機関で短縮し
ている。6年間で在院日数、転帰先、リハ開始
時・退院時Barthel Index等の変化を明らかにする
ことにある。

【方法、対象】当科に1999年度（診療報酬制
度の制限を受けていない）と2005年度に脳卒中
（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）にて入院した
患者について在院日数、転帰先、Barthel Index
を中心に分析した。

【結果】1. 転帰先

1) 両年度とも自宅が転院より有意に在院期間
が短かった。

2) 99年度の平均在院日数は63.2日で05年度
は58.4日で有意に短縮していた。

3) 99年度は自宅退院率が63％で05年度は転
院率が55％で有意な変化があった。

2. Barthel Index（B.I.）を使った検討

1) 99年度で64才以下が高齢者より退院時B.I.
が高かった。

2) 99年度はリハ開始時B.I.が40.3で05年は
27.9で有意に低かったが、退院時B.I.は変わらなかった。

【結論】99年度と05年度を比較すると在院日
数が約2/3に短縮されていたが、2005年度のリ
ハ開始時B.I.は重症であったにもかかわらず退
院時のB.I.は同等になっていた。

医療制度の変更による影響が大きいものと考えられた。

6. 大腸癌におけるchemokine
SDF-1α及びchemokine
receptor CXCR4発現に関する免疫
組織学的検討

病理学（人体分子）
吉竹直人，福井広一，藤井茂彦，山岸秀嗣，
関川昭，市川一仁，冨田茂樹，井村穂二，
藤原孝博

【目的】Stromal cell-derived factor (SDF)-1α及
びその受容体であるCXCR4はリンパ系を中心
に様々な免疫反応に重要である。近年、癌細胞
にもCXCR4の発現が認められ、癌の浸潤や転
移に関与することが注目されている。そこで本
研究では、大腸癌におけるCXCR4及びSDF-1α
の発現を検討し、臨床病理学的特徴との関連を
明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】大腸癌60例を対象に、CXCR4
及びSDF-1αの発現を免疫染色法で評価し、臨
床病理学的因子との関連を解析した。

【成績】大腸癌先進部におけるSDF-1α及び
CXCR4発現はリンパ管侵襲、リンパ節転移、病
期、5年生存率と有意に相関を認めた。また、
CXCR4発現パターンはnuclear typeとcytomembrane typeに分けることができ、nuclear typeは
cytomembrane typeよりも低分化、高病期、リン
パ節転移陽性であった。

【結論】大腸癌においてSDF-1α及びCXCR4
発現はリンパ節転移や予後不良と深く相関し、
さらに、nuclear type CXCR4発現はリンパ節転
移を予期する上で重要と考えられた。